

書評

〔評者〕
木内祐二
昭和大学薬学部教授／薬学教育推進センター長



医薬品副作用対応ポケットガイド

越前宏俊 著

●B6変型 頁288 2015年

定価：本体3,500円＋税

[ISBN978-4-260-01985-9]医学書院刊

薬物治療は現代医療の基幹をなしていますが、多様なメカニズムをもつ新薬が続々と登場するとともに、また、高齢化に伴う薬物治療の複雑化により、有効性ととも副作用(有害反応)のリスクも明らかに高まっています。こうした薬物治療の最前線で、安全で確実な薬物治療を実践するためには、膨大な医薬品情報の効率的な利用と高度な判断力を要します。従来、副作用が疑われる場合は、個々の薬品の添付文書の記載から副作用を確認するとともに、その治療・対応は治療マニュアルに当たらなければなりません。本書は、目前の患者に副作用が疑われた場合、その症状や検査値から原因薬物を推測し、適切な対応を行うという、著者の言う「逆引きする」実践を重視した書となっています。

本書では、多彩な副作用を、「アレルギー機序または偽アレルギー機序」「内分泌・代謝」「腎機能・電解質」「血液」「循環器」「上気道・呼吸器」「消化器」「眼科領域」「耳鼻科領域」「筋・骨格」「神経」「精神科領域」「その他の分類できない副作用(全身性を含む)」に分類して章立てし、112にもものぼる副作用について解説して

います。

各副作用はそれぞれ2～3ページにコンパクトにまとめられ、また、大変に使いやすく、視覚的にもわかりやすく構成されています。最初に「重症度」「頻度」「症状」が合わせて10行程度に示され、副作用の概要を瞬時に理解できるように工夫されています。

続いて、副作用を疑う患者を前にしたときの思考と行動パターンに沿って、「検査」「患者背景(リスク因子など)」「対応・処置」「患者説明」「原因となる薬剤など」「副作用の起きるメカニズム」「予防」の項目立てで簡潔に解説されています。最新の情報に基づき、発現頻度などの数値も示され、副作用の膨大な情報に途方に暮れていた医療スタッフにとっては本当にうれしい内容です。

本書は薬物治療に関わる医師、看護師、薬剤師などのすべての医療人に必携のポケットガイドと言えるでしょう。副作用に関わる莫大な情報を簡潔に整理し、このような実践的な書を世に出された著者と出版社の努力に心から敬意を示します。